

Nara National Museum

# 奈良国立博物館 だより

第73号

平成22年 4・5・6 月



聖観音菩薩立像(奈良 薬師寺) —特別展「平城遷都1300年記念 大遣唐使展」より—

特別展

平城遷都1300年記念 大遣唐使展  
4月3日(土)～6月20日(日)  
本館・東新館

## 展示品の みどころ

## る り どう じん ぶ つ 琉璃堂人物図

(伝)周文矩筆  
米国 メトロポリタン美術館  
絹本着色

縦31.4cm 横128.4cm

中国 南宋(13世紀)[原本 中国 南唐(10世紀)]

Image copyright © The Metropolitan Museum of Art / Art Resource, NY



ひげをたくわえた壮年の男たちが集っている。石の上に座ったり、樹木にもたれたり、背景はないが屋外のような。よく見るとほとんどの者が口を開いており、話しあい、声を出して書物を読む彼らの声が画中に響いている。

画卷の冒頭には「周文矩琉璃堂人物図神品工妙也」とある。この文字がいつ記されたのかという問題はありますが、周文矩は中国・南唐(五代十国期、937～975)の画家の名であり、「琉璃堂人物図」はこの絵の題を示すのであろう。では琉璃堂とは一体どこか。晩唐の詩人、張喬(咸通年間=860～873進士)の「題上元許棠所任王昌齡庁」という詩に次のようにある。「琉璃堂里当時客、久絕吟声繼后塵、百四十年庭樹老、如今重得見詩人。」すなわち、琉璃堂には以前のような吟詠の声が久しく絶えていたが、百四十年の月日を経た今、老木は同じ場所に再び詩人の姿を見るという。つまり盛唐期に詩人・王昌齡(698?～757?)のいた庁に、張喬と同時代の詩人であった許棠(咸通十二年=871進士)が赴任することになり、往時を彷彿させる詩人らの雅会が同じ場所で再び行われるようになったというのである。王昌齡、許棠はいずれも江寧(南京)に丞として赴任しており、この絵画には、この詩にある江寧の琉璃堂に集う人々の光景が描かれたと考えられる。歓談し、書を読み、詩作に耽る様子は、唐代の雅会のさまを今に伝えているのである。

遣唐使や随行者の中には彼らのような文人と関わり、雅会に加わった者もいたことであろう。中でも、別格かもしれないが、遣唐使として渡った唐で朝廷に仕え、ついに帰国することなく生涯を終えた阿倍仲麻呂(698、または701～770)が、唐で詩人と交遊したことはよく知られている。因みに王昌齡と阿倍仲麻呂は一説に同年(698年)生まれ。洗練された盛唐文化の中を生きた同世代人である。

唐王朝の後継者を自任し、自ら国号を唐と定めた南唐の都城は江寧にあった。文化的にも唐の粋を引き継いだ南唐でこのような絵画が生まれたことは、至極あり得べきと思われる。

北澤菜月(当館学芸部研究員)

## 【表紙写真解説】

## しょうかんのんぼざつりゅうそう 国宝 聖観音菩薩立像

奈良 薬師寺蔵  
銅造 像高188.9cm  
飛鳥 一奈良時代(7～8世紀)

薬師寺東院堂の本尊で、古代ブロンズ仏の最高峰として名高い。瑞々しい張りをもつ面部、均整のとれたプロポーション、薄手の衣が密着する肉身の起伏など、現実の人体に即して理想的な写実表現を追求した唐代彫刻の到達点を示すかのような作風がみられ、遣唐使を介してもたらされた美術様式が、わが国で大きく開花したことを物語る。両脚をそろえて直立し、裾の両側を翼のように広げる点や、意匠性に富んだ衣文構成など、正面観を重視した造形は、絵画や浮彫的な媒体(傳仏など)に表された仏の姿が、制作時に参考にされた可能性を示す。これに対し側面観は非常に立体的で、充実した肉取りと曲線的な体のラインの美しさに驚かされる。

稲本泰生(当館学芸部企画室長)

## 開館予定(4月～6月)

### ■開館時間

午前9時30分～午後5時

### (開館時間延長日)

4月30日(金)以降の毎週金曜日  
午後7時まで

※いずれも、入館は、閉館の30分前まで

### ■休館日

月曜日 ※5月3日(祝)は開館します。  
6月21日(月)～7月20日(火)

## 観覧料金

□特別展「平城遷都1300年記念 大遣唐使展」

	一般	大学生・高校生	中学生・小学生
個人(当日)	1,400円	1,000円	500円
団体・前売	1,200円	800円	300円

- \*この料金で「坂本コレクション・中国古代青銅器」もご覧になれます。
- \*団体は20名以上です。
- \*障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。
- \*毎月22日は「夫婦の日」として、ご夫婦で観覧される方は一般料金の半額で観覧できます。
- \*4～6月の間、耐震工事等のため平常展のみのご観覧はできません。



[交通案内] 近鉄奈良駅下車徒歩約15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅から奈良交通「市内循環」バス「氷室神社・国立博物館」下車

※当館には駐車スペースがございませんので、最寄りの県営駐車場等(有料)をご利用ください。